

第1章

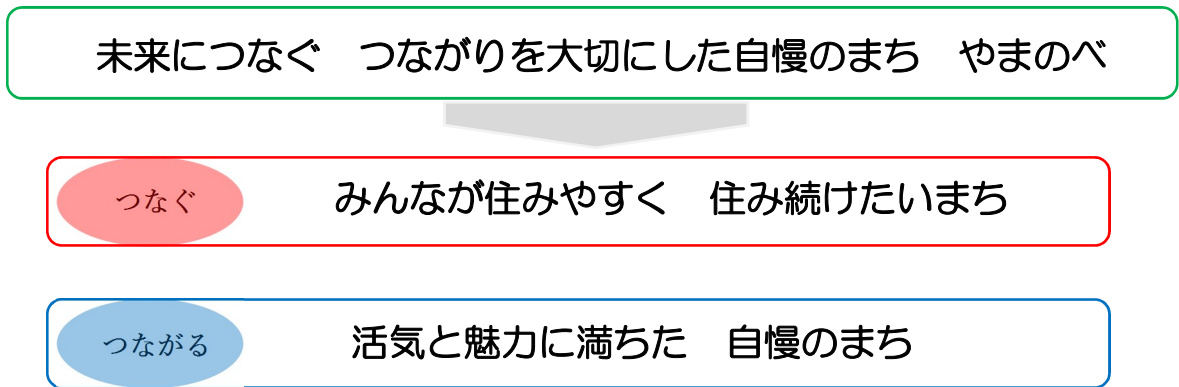
将来都市像

第1章 将来都市像

本章では、第5次山辺町総合計画の基本理念である『みんながつながる 協働のまち やまのべ ～未来につなぐ 自慢のまち～』と山辺町の特性及び様々な課題を踏まえ、将来都市像のテーマと基本方針を設定し、拠点、軸により構成される将来都市構造を設定します。

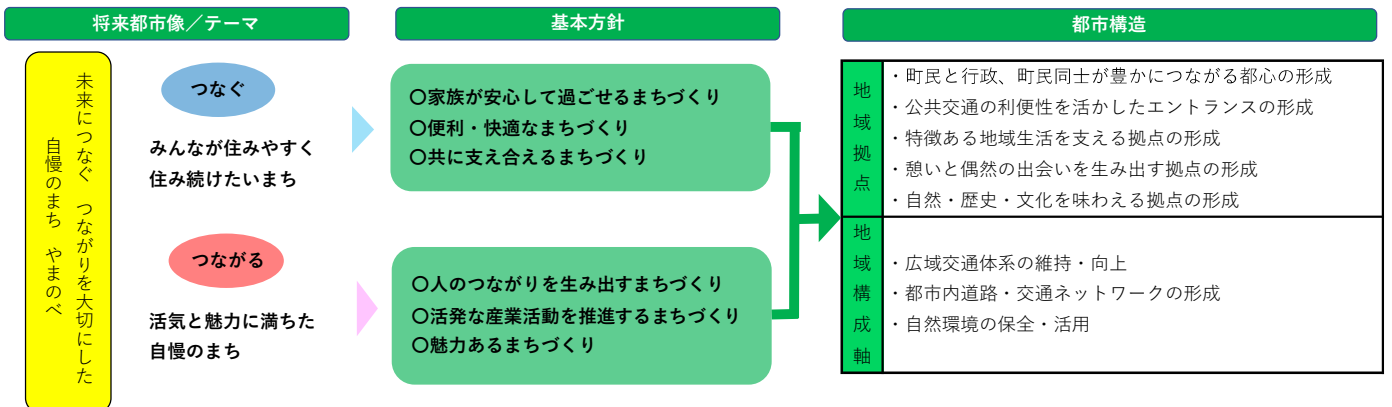
《将来都市像のテーマ》

将来都市像のテーマは、第5次山辺町総合計画や関連計画との整合、都市づくりの潮流、山辺町の特性・課題などを勘案し、次のように設定します。



子どもから大人まで、地域住民同士が互いの価値を尊重し、関わり合いながら暮らす「やまのべ」の文化を、次の世代につないでいくことを目指します。

《将来都市像の体系》



つなぐ

みんなが住みやすく 住み続けたいまち

本町は県都山形市に隣接し、山形市中心部まで非常に近い距離にあり、一体的な生活圏を形成しています。町内には大型店舗も立地し、日常的な買い物ができ利便性が高く、また、複数の診療科が存在し、かつ地価も安価であり、さらに優れた自然環境も多く、防犯、安全面も良く、良好な生活環境を有しており、県内有数の「住みやすい町」としてたくさんの人から支持されています。

本町の豊かな資源、優位な立地性を活用し、定住の地としての愛着を感じてもらい、暮らし続けるのよ地域と感じてもらい、子ども達に残したい自慢の山辺町を未来に『つなげる』まちづくりに取り組んでいきます。

基本方針

(1) 家族が安心して過ごせるまちづくり

- ・子どもが安全に安心して充実した生活が送れるまちづくり
⇒治水治山といった災害に対する行政・地域での対応に取り組むほか、交通事故や犯罪に強いまちなかの空間づくりなどに取り組んでいきます。
- ・家族の安全な暮らしを支える高齢者へのサポート
⇒高齢化に備えた福祉や医療環境を整えることにより、子育て時期だけではなく先々まで見据えた、安心できる生涯居住の環境を確保します。

(2) 便利・快適なまちづくり

- ・「やまのべ」暮らしの魅力向上
⇒県都山形市へのアクセス性に優れた便利な住宅地としての魅力に磨きをかけ、「住みやすさを重視したまちづくり」を推進します。
- ・コンパクトな中心部と小さな拠点の連携した市街地構造
⇒適正な規模の市街地を保ち、空き地・空き家を地域の資源として、これらを極力活用したコンパクトな市街地の維持形成に取り組みます。
- ・連携中枢都市圏の取り組み
⇒山形市を中核都市として、圏域内の市町が連携し、コンパクト化とネットワーク化により、一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することで町民が安心できる快適な暮らしを提供します。

(3) 共に支え合えるまちづくり

- ・三世代まちなか同居・近居の推進
⇒本町は、三世代同居が多く、育児だけでなく祖父母世代の生きがい、ひいては家族の絆を深める点からも重要性が高く、また、まとまって住むことによる環境面のメリット、介護福祉サポートといった面からもメリットがあることから、同居・近居の促進を図ります。
- ・地域住民や民間企業と協働した施設の維持管理
⇒使いやすさの向上や町民ニーズに合わせた活用面を含め、町民や民間企業の参加によって維持管理を推進する体制整備に取り組めます。

江戸時代からの歴史を持つ繊維産業、寒暖差や豊富な湧水を活用した農林漁業など、生産量や知名度以上に優れた技術を持ち優れた品質を生み出し、地域の生活を潤しています。

高品質な製品の生産強化を図るとともに、その技術を他分野での活用や他の主体との連携などを通して、より幅広く活用することで、やまのべの「技」を用いて、高い「質」や「味」を生み出し、その技を「育」て、やまのべの「質」の周知に努め、地域の活性化につなげていくことを目指します。

まちを形づくる一人ひとりの町民の皆さんとさまざまなものの『つながり』を見つめ、その中にある価値を見い出しながら、自慢できる山辺町をつくり続けていきます。

基本方針

(1) 人のつながりを生み出すまちづくり

- ・人が交流し文化が形成される場の構築
⇒運動施設など、誰もが自由に訪れ、その時々集まる人々と交流でき、自宅や職場とは隔離された、心地の良い第3の居場所の候補となる既存施設の積極的、発展的活用を進めていきます。
- ・学び合う文化が息づく環境づくり
⇒子ども達が学校や地域でいきいきと育まれるための教育環境と生活環境の充実を図るとともに、子ども目線で子ども達が仲間と遊び学び合う環境づくりなどを進めていきます。

(2) 活発な産業活動を推進するまちづくり

- ・にぎわいの拠点となるエリアの形成
⇒本町の商業、観光などの活性化と町外への情報発信を目指した、人やものが集まる文化の中心部となるエリアづくりを進めていきます。
- ・街なかの資源の有効活用
⇒閉鎖や移転を行った施設や空き地を活用し、地域と協力しながら、地域活性化にむけた環境整備・維持活用等を進めていきます。

(3) 魅力あるまちづくり（活気あるオンリーワンのまちの形成）

- ・都市の近くで自然を味わえる暮らしの実現
⇒都市近郊にある強みを生かし、本格的な家庭菜園の実現など、田園都市生活を送りつつ通勤・通学する、新たな魅力あるライフスタイルを実現できる場として提案します。
- ・健やかに育むことができる質の高い子育て環境の提供
⇒森林や湖沼など優れた自然を有し、子どもが健やかに育つような環境を提供できるよう、自然環境を遊び場とする取り組みの検討を行います。
まちなかの様々な空間を「地域で子どもを育てる場」として捉え、多様な使い方の共存を認め合うまちづくりを推進していきます。

第2節 将来都市構造

将来都市構造とは、都市の将来像や都市づくりの目標の達成を目指して、町域全体の特徴や骨格を空間的かつ概念的に表し、目指すべき将来の都市の姿をわかりやすく描くものです。

〈基本的な考え方〉

人口減少、高齢化の進行等が予測される中、長期的な展望のもと、町民の生活や交流を支える拠点、暮らしや様々な活動の場となる地域、人々の交流や流通を支える軸を設定し、都市機能の集約や居住の適正な誘導を図ることで、コンパクトで持続可能な集約型都市構造の構築をめざします。

地域拠点の形成

本町の土地利用や地域特性、交通条件等を踏まえ、町内の主要機能を構成する拠点・エリアを形成します。

(1) 町民と行政、町民同士が豊かにつながる都心の形成【公益交流拠点】

町民共有の財産となっている既存の施設を活かして、誰もが住みやすく住み続けたいくなるまちの拠点を形成するため、公共施設が集積している役場周辺を、町民の生活と交流の中心となる「公益交流拠点」に位置づけ、都市機能の一層の集積促進やアクセス性を高めることで、より便利で快適な町民生活の推進と、多様な交流を促す拠点の形成に取り組んでいきます。

(2) 公共交通の利便性を活かしたエントランスの形成【公共交通拠点】

J R羽前山辺駅周辺は、公共交通の利便性を活かして、「公共交通拠点（エントランス拠点）」に位置づけ、都市圏全体での定住の場としての賑わいの創出や、町の玄関口としての景観形成等により、町民が愛着をもって誇れる拠点を形成していきます。

(3) 特徴ある地域生活を支える拠点の形成【地域コミュニティ拠点】

各地域の生活や地域活動を支える場として、支所、公民館、コミュニティセンターを中心とした「地域コミュニティ拠点」を位置づけ、地域住民に身近なコミュニティ拠点として、地域住民同士の交流や地域個性の発展に寄与していきます。

(4) 憩いと偶然の出会いを生み出す拠点の形成【緑の拠点】

大規模な公園を「緑の拠点」に位置づけ、自然とのふれあいやレクリエーション、防災機能など、町民に憩いとやすらぎを与える場所として機能の強化を図ります。また、民間活力を最大限に活かして、緑・オープンスペースの整備・保全を効果的に推進し、利便性や快適性の向上と人と人の偶然の出会いを生み出す場の構築を図ります。

(5) 自然・歴史・文化を味わえる拠点の形成【自然・歴史・観光拠点】

県民の森、玉虫沼周辺、ふるさと資料館、ふるさと交流センター『あがらっしゃい』周辺を「自然・歴史・観光拠点」に位置づけ、地域の自然・歴史資源を活かした観光・交流促進の場としての機能の向上を図ります。

本町が持っている地域特性を発揮するため、それぞれの地域や地域拠点を機能的に連携させる地域構成軸を形成します。

(1) 広域交通体系の維持・向上【広域交流軸】

地域拠点の機能的な連携を創り出し、寒河江市方面から山形市方面をつなぐ、鉄道路線と主要道路の交通軸を主軸に、広域的に人・もの・情報等を交流させる軸の形成を図ります。

⇒ J R左沢線、国道 458 号、主要地方道山形山辺線、県道山辺中山線、県道山辺船町線、都市計画道路 榎沢山辺中山線など

(2) 都市内道路・交通ネットワークの形成【生活交流軸】

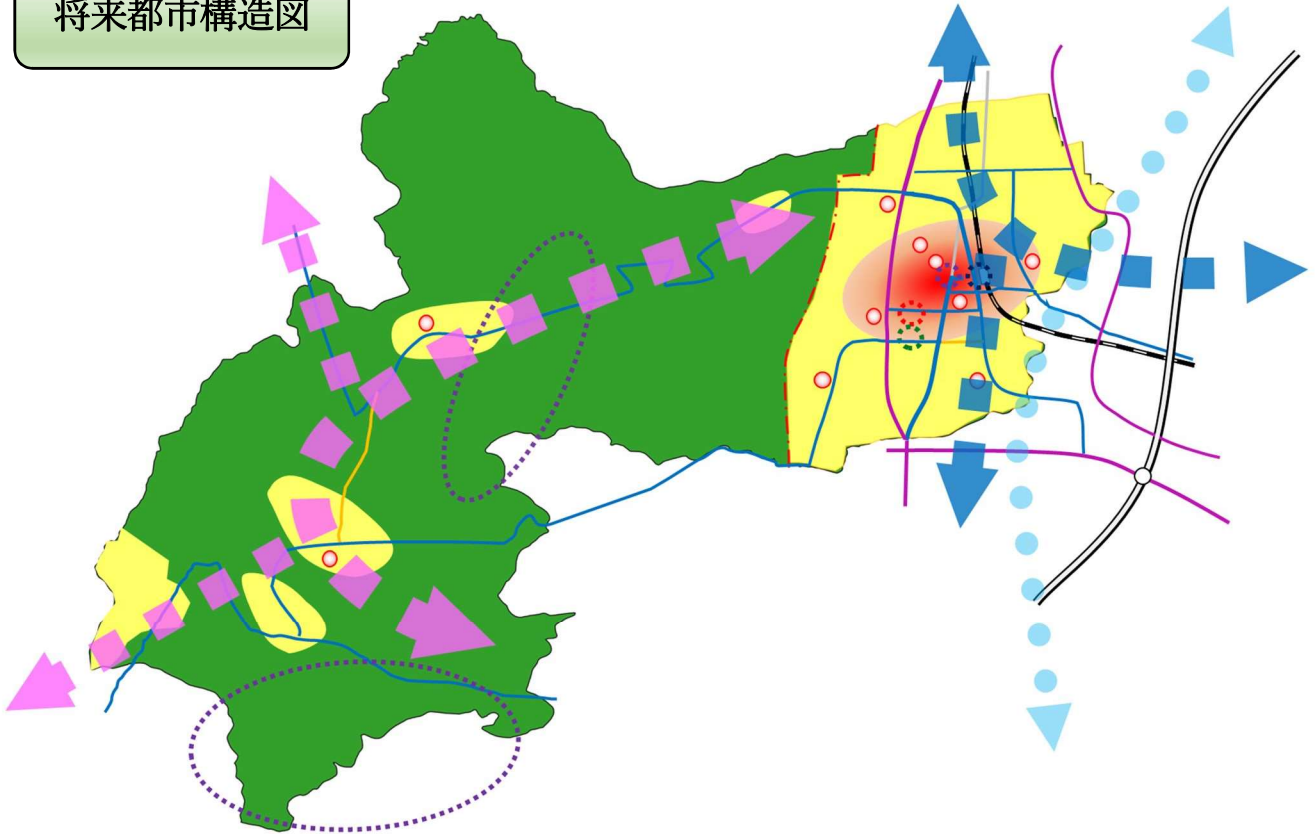
「公益交流拠点」と「地域コミュニティ拠点」、「自然・歴史・観光拠点」をつなぎ、市街地と中山間部・農村部との間で生活・交流の活性化のための連携強化を図ります。

⇒ 主要地方道山形朝日線、主要地方道山形山辺線、主要地方道山形白鷹線など






(3) 自然環境の保全・活用【流域環境軸】

本町の東端を流れる須川及び沿岸の流域環境を主軸に、自然環境に配慮した景観・快適性を保全・活用する軸の形成を図ります。




将来都市構造図




地域拠点

-  公益交流拠点
-  公共交通拠点
-  地域コミュニティ拠点
-  緑の拠点
-  自然・歴史・観光拠点

地域構成軸

-  広域交流軸
-  生活交流軸
-  流域環境軸

凡 例

-  都市計画区域界
-  広域幹線道路
-  都市幹線道路
-  地域幹線道路
-  市街地地域
-  田園地域
-  丘陵地域